

平成27年度 特別養護老人ホームサンライフ御立（医務）

事業報告書

H27年度医務室の目標として、入院者数をH26年度の入院者数に比べ5割減にする
と挙げていた。結果、H27年度は42名の入院者数で、前年より21名の減少となった
事は、異常の早期発見・早期受診・他部署との連携を図った事が良い結果をもたらした
と考える。

I 看護師間の意思の統一化をはかる。（倫理感、死生観、価値観）

看護師間の意思の統一については、他部署との情報共有もでき、入所者には
支障をきたす事もなく業務を遂行できたと考える。

- 1 「介護看護合同会議を1か月1回継続する。」については、必要時施設長に参加
して頂き合同会議を行った。
- 2 「入院回避に向けて議論をする。」については、毎日医務室でカフェレンスを実
施し、入所者の日々の状態をアセスメントし早期受診につなげた。結果、前述
している通り入院数の減少に繋がっている。（資料1）
- 3 入院数・看とりについては、（資料1）に示している通りである。

入院数42名のうち入院日数が長い人は30日以上の利用者もいるが、平均入院
日数は9.9日、月平均入院数は3.5人だった。ベッド稼働は98.7%と高い数値
を示した。この事は情報の共有、他部署との連携が図れた結果と評価している。
看取りに関しては（資料1）に示している通り10名であった。

II 業務の簡素化・効率化をはかる。

入所者の情報を共有することにより、異常の早期発見・早期受診の対応につな
がった。以前は入所者の受診には必ず看護者の付添が必要であったが、入所者
家族に協力を依頼したことで、受診に付き添う件数の減少及び時間の短縮につ
ながった。その結果、入所者とのかかわりにゆとりを持ち対応する時間が増え
ている。介護現場に足を運ぶことで、他部署とのチームワークも図れ、協働し
て介護・看護実践が出来た。

III 面談

入所から看取りまで時間をかけて面談していたが、入所時意向確認については契

約と同時に相談員に依頼した。看取り面談については利用者の状態に応じて看取り時期を判断し、配置医師・家族・看護師・介護員と共に行い同意を得ている。時間をかける事なく面談しているが、入所者には何ら支障もない。

問題行動の多い認知症入所者の増加から精神科の受診が H27 年度は 129 回（資料 2）と多かった。次年度は精神科の訪問診療も考えていきたい。

下半期は、施設内感染（インフルエンザ・ノロウイルス）もなく、入院は皆無であった。朝礼で最新のニュースを伝達し、職員の注意・換気を促し認識を深め、内部・外部環境の整備をした。加えて感染委員による勉強会・ポスターの作成による職員及び家族への啓発運動も行った結果が効を奏した。次年度も引き続き感染予防対策に取り組んでいきたい。

また、入所者・職員の健康管理にも力を入れて取り組みたい。